第 7 回　「お金とは何か」(2026.06.20 開催)

<概要をまとめる意義>
以下、今回の哲学カフェの内容について概要をまとめる。
これは議事録ではない。迷ったら何度もここに立ち返り、その内容を容赦なく批判し、議論しなおし、更なる”問い”の根源へ一歩でも近づくための手掛かりとしてほしい。

<お金とは何か>
私たちの生活の基盤であるお金とはいったい何なのか？今回はお金の歴史という視点から議論をスタートした。そもそも原始の社会では、分け合ったり、こちらから贈るだけというような単純なシェアと贈与の関係性が大半だったと考えられる。だが、次第に人間が増え、生活範囲が異なる集落が増えると、あまり知らない間柄でもモノを分け合う必要や、あるいはその地域特有のモノがたくさん出てきた。これが交換社会の始まりであり、現在は貨幣とモノが日々交換されている。貨幣が貨幣であるためには、その信用を誰が担保するのかが大きな問題だが、多くは国がその責任を担っている。しかし、その信用性の強度は経済や地政学的要素によって常に変動している。モノとお金を交換できるようになり、私たちの生活は飛躍的に豊かになった。卵を取るために鶏を育てなくてもよくなり、魚を捕るために釣りに行かなくてもよくなった。しかし、食料を始め、電気、ガス、飲み水さえお金で買うようになった社会は災害の度にその脆弱性を露わにされる。地震で家が破壊されたとき、洪水で飲み水がないとき、電気がなくて調理ができないとき、手元にある 100 万円はいったい何の役に立つのだろうか？

あらゆるものに値段が付き、値段による評価が優先されるというのが資本主義社会の特徴の一つだと捉えるならば、私たちはこの閉塞感をどう打ち破れるのだろうか。昨今、このポスト資本主義の在り方が問われている。カフェで議論になったのは、値段と価値を切り離して再解釈する方法だった。交換ベースでの価値＝値段ではなく、私だけの価値、私だけの意味を大事にする感覚。始まりにおいては、個人的で主観的な価値が、他者との対話を通して洗練され、共有されることで、次第に「私たちの価値」として社会の中に根づいていく。それでもまだ、資本主義の見方では値段が低い＝価値が低い状態は続いている。この時大事なのは、精神的には高価値だが資本主義的には低価値の状態であっても、その重要さに気づき、みんなで芽を育てていこうとする「フォロワーシップ」の存在かもしれない。

“お金”を読み解くキーワード>
・何にでも値段をつけることができることが資本主義の特徴
・時給は時給以上の価値を生めない(スキマバイトの罠)

これらのキーワードから、新たな”問い“へ変換した。

<新たな問い>
・贈与と資本主義社会のハイブリッド化は可能か
　→経済の屋台骨としての資本主義と創造性発揮の潤滑材としての贈与社会
・主観と客観は対立関係なのか？
　→分析を行うほど、同じような結果物が出てくる。これは創造性に逆行していないか？